

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 4年 3月 10日

事業所名 聖ヨハネ子どもセンター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		グループのお子様の発達段階や動き方などに合わせて遊具の配置をしたり、適宜別室を使用するなどの工夫をしています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		お子さまの安心安全を大切に、また、保護者を含めて支援できるよう職員数を配置しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		写真や絵カードを適宜利用し、プログラムの流れや物の置き場所などを提示しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃に加え、療育終了後にはおもちゃの消毒をしています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公表しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		必要に応じて検討いたします。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		初回面接時に保護者から詳しく聞き取りをし、お子様のアセスメントを丁寧にを行い分析して、作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		発達検査等を実施、または検査結果の引継ぎを行い、発達面・特性面のアセスメントをしています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		保育士を中心に、臨床心理士、公認心理師、言語聴覚士でのチームで立案しています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		ひとつの活動を2,3回のサイクルで行うようにしています。お子様の発達を把握し、グループに合った活動をするよう検討しています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		療育開始前に活動の打ち合わせやお子さま(保護者)の情報共有、療育終了後には振り返りのカンファレンスを行っています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		心理、言語、保育士の多職種からの視点で、よりよい支援を行うための時間としています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		お子さまひとりひとりにファイルを作成し、保護者含め、日々の記録を残しています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に1回、モニタリングを行っています。それ以外にも保護者のご要望があればその都度お話を聞かせていただいています。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて、保健センター・児童発達支援事務所・お子様所属の園・病院などの連携をさせていただいています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			該当児童は在籍していませんが、必要に応じて検討いたします。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の要望があれば、電話や面談などで連携させていただいています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		必要に応じて検討いたします。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		親子通室のため、お子さまの様子を見ながら、保護者に対し、お子さまの行動の意味や発達段階、関わり方、お子さまに今大事なことなどを適宜お話させていただいています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○				
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約時に行っています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		父母の会の形はとっていませんが、グループ療育では、療育時間中に保護者同士でお話ができる機会を持つようにしています。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		教室内にお知らせを提示したり、おたよりを発行して情報をお伝えしています。また、必要に応じて個別にお伝えしています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人記録など、鍵のかかる収納棚に保管しています。また、スタッフ間で意識向上のため研修をしています。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		お子さまの発達段階に合わせて、視覚的に伝えたり、言葉かけを工夫するなど適宜工夫しています。保護者とのコミュニケーションにおいても、必要であれば言葉だけではなく、文字にて伝える、電話でなくメールで連絡するなどの配慮をしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		訓練は毎月行っています。契約時にはマニュアルがあることを保護者にお伝えしています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		初回面接時に必ず、健康面・医療面・安全面からもアセスメントを行っています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	—	—		食事の提供はありません
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		毎回の療育終了後のカンファレンスで振り返って確認しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			現在、身体拘束を必要とする方はおられません。必要が生じた場合は、組織として決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明をし、了解を得たうえで対応します。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。